

六月二十三日

朝、コラム一本書く。昨日、軽井沢のO氏よりカバールコラムの字が小さ過ぎるの指摘があったので、今日修正したい。コラム、もう一本書いて大学へ。十三時半法政大学の学生来室。十四時元広島市長平岡敬氏来室。カンボジアの「ひろしまハウス」の件。予算が取れそうなので、今年中にほぼ完成させたいので、最終図面を七月一杯に仕上げてくれとの事。了解する。ゆっくり、未完を続けるのも良いが、折角、行政が関心を寄せて下さるのだから普通のやり方も取り入れるべきだろう。平岡さんはカザフスタンに八月行かれると言う。反核に関して、平和に関して筋金入りの人物である。この人物と出会えたのは私の人生でも記憶に残る事となるだろう。まだまだ骨ある人は居るのだ。懐かしさの極み。「伴野一六郎」の伴野一六さんの孫娘伴野優子さんよりメールいただく。伴野一六さんは四年前に亡くなり、あの稀代の聖バラック、一六郎は三年前に取り壊されたの事である。図面だけでもキチンと取っておけばと悔やまれる。優子さんにはメールを返信する。もう何十年も前の事で、私の二十代をかなり決めた建築であったので感無量である。

コラムの文字大きくしたが、読者の方迄それが届いているか不明。OG向井来室。北河原温さんのところでお世話になるのが内定したとの事。気になっていた人なのでホッとした。後、雑打合わせ。気仙沼に関してスタッフに話すも、伝わらず、でも仕方ない事ではある。唐桑町長佐藤和則氏と電話。何とか現状を打破す

る事を仕掛けたのだが、数を集積すれば、今を変えられる方法があるのではないかの幻想を抱かざるを得ぬ。十九時過近江屋へ。W氏と会食。四十代のW氏の言う事には何とないリアリティーを感じる。が、後続の世代はそれを引き継げるのかの疑問は大なり。二十一時半頃修了。後続の世代に継承したいと考える、その事自体に無理があるのかなあ。

六月二十四日

何となく、歩きたくなくて、新宿よりバスで大学へ。曾田先生とパツタリ会つ。学生的一种無表情振りが心配だと先生も話していた。十時前研究室。大学院レクチャー準備。フランク・ロイド・ライト、ビルバオ、ゲリー。アメリカの建築。気仙沼の建築について講じる。来週からは別体系の話をする予定。十二時十分迄。一時間半しゃべると、いささか消耗するな。

十三時より雑打合わせ。北京計画、猪苗代、アジア工芸社、リアス、他の打合わせ。その後、O邸、S邸打合わせ、細部にわたる。古い作品をスライドで見せてスタッフ、学生にデザインの仕方を見せる。何かの役に立つのかなあと疑わしいが、しないよりはマシだろう。二〇時半迄続ける。近江屋で夕食。世田谷村に戻る。